

岡山県子どもの生活実態調査結果の概要

保護者及び子ども用アンケート

1 調査の概要

(1) 調査対象

県内の市町村から抽出した小学5年生及び中学2年生の子どもとその保護者

(2) 調査期間

平成29年11月16日～11月24日（9日間）

(3) 配付数と有効回収数

対 象	配付世帯数	回収世帯数	回収率
小学5年生とその保護者	2,527 世帯	2,142 世帯	84.8%
中学2年生とその保護者	2,582 世帯	2,086 世帯	80.8%
合 計	5,109 世帯	4,228 世帯	82.8%

2 調査結果の概要

(1) 世帯区分（所得階層）ごとの世帯分布

世帯区分（所得階層）	世帯数	割合	世帯人数	割合
世帯区分1（122万円未満）	378 世帯	9.8%	1,665 人	9.5%
世帯区分2（122万円以上245万円未満）	1,636 世帯	42.2%	7,646 人	43.8%
世帯区分3（245万円以上490万円未満）	1,764 世帯	45.5%	7,828 人	44.8%
世帯区分4（490万円以上）	98 世帯	2.5%	318 人	1.8%
小 計	3,876 世帯	100.0%	17,457 人	100.0%
不明	352 世帯	-	1,305 人	-
合 計	4,228 世帯	-	18,762 人	-

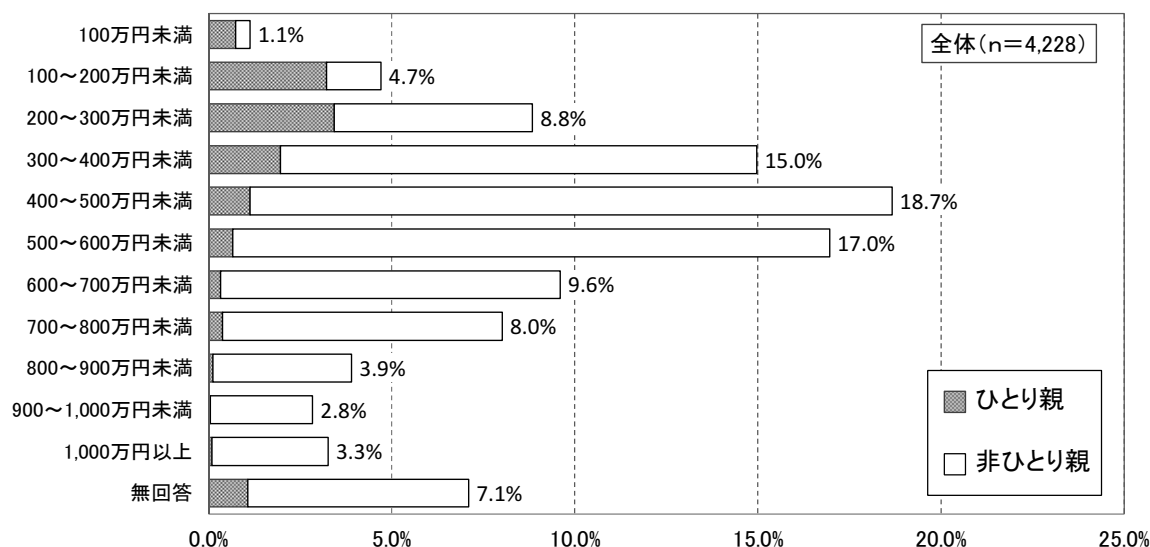
※ 世帯年収と世帯人数の設問により、当該世帯の等価可処分所得（世帯年収を世帯人員の平方根で除した額）を算定し、「平成28年国民生活基礎調査」による等価可処分所得の中央値245万円と貧困線122万円をもとに4区分に設定した所得階層ごとに世帯を分類

(2) 家族形態ごとの世帯分布

家族形態による世帯分類	世帯数	割合	世帯人数	割合
ひとり親世帯	557 世帯	13.5%	2,006 人	10.7%
非ひとり親世帯	3,582 世帯	86.5%	16,661 人	89.3%
小 計	4,139 世帯	100.0%	18,667 人	100.0%
不明	89 世帯	-	95 人	-
合 計	4,228 世帯	-	18,762 人	-

(3) 世帯収入

本調査における年間の世帯収入（家族全員の手取り収入の合計）の平均は511.6万円
で、その分布は次のとおりとなっている。



(4) 結果からみえる主な傾向

<所得が少ない世帯>

- ① 非正規職員の割合が高い。
- ② 子どもと一緒に過ごす時間が取れていない割合が高い。
- ③ 地域行事へ参加する割合が低い。
- ④ 子どもの学力が足りないと感じている保護者の割合が高い。
- ⑤ 子どもの進路について「高校まで」と希望する保護者の割合が高い。
- ⑥ 子どもの学校外教育（学習塾や習い事）への支出額が低い。
- ⑦ 子どもに文化的な体験をさせていない割合が高い。
- ⑧ 公的機関の相談窓口を知らなかったが、今後利用したいという世帯の割合が高い。

<所得が少ない世帯の子ども>

- ① 学校の授業でわからないことが多い割合が高い。
- ② 学校以外での勉強時間が少ない割合が高い。
- ③ 進学先の希望を「高校まで」とする割合が高い。
- ④ 放課後に子どもだけで過ごしている割合が高い。
- ⑤ 朝食を毎日食べない割合が高い。
- ⑥ 家庭で大人と社会の出来事についてまったく話をしない割合が高い。
- ⑦ 自分は価値のある人間だと思わない割合が高い。
- ⑧ 夢や目標をかなえるためにがんばっている割合が低い。

支援者用アンケート

1 調査の概要

(1) 調査対象

子どもの支援に携わる関係機関等

(2) 調査期間

平成29年11月16日～11月24日（9日間）

(3) 配付と回収の状況

調査対象	配付数	回収数	回収率
保育所	22	17	77.3%
学校	28	28	100.0%
放課後児童クラブ	21	18	85.7%
児童館	10	10	100.0%
児童養護施設等	14	11	78.6%
NPO 法人	36	20	55.6%
スクールカウンセラー	10	8	80.0%
スクールソーシャルワーカー	33	15	45.5%
生活困窮者自立相談支援機関	16	15	93.8%
大学生	10	7	70.0%
合 計	200	149	74.5%

2 調査結果の概要

(1) 背景に貧困が伴うと考えられる子どものおかれていた状況

- ・食事を十分にとれていない。
- ・学力が低い。

(2) 困難家庭への支援が難しい点

- ・保護者との接触、信頼関係づくりが難しい。
- ・支援に用いることができる制度が少ない。

(3) どのような支援が必要か

- ・訪問による早期発見や生活支援
- ・子どもの居場所の提供